

# 有機的連帯のための同業組合

政策社会学史②デュルケーム

上村 泰裕（名古屋大学）



Émile Durkheim 1858.4.15.~1917.11.15.

Émile Durkheim 1858.4.15.～1917.11.15.

---

社会学の始祖の一人。1895年、ボルドー大学に最初の社会学講座を創設。のちパリ大学教授。社会学誕生の宣言とも言うべき『社会学的方法の規準』を著わし、社会的事実を「物のように」考察するのが社会学だと述べた。『自殺論』では、無際限の欲望に囚われた現代社会の問題点を剔抉し、同業組合の再建という処方箋を与えた。『社会分業論』『宗教生活の原初形態』などの主著のほか、教育・家族・法律・犯罪の社会学的研究を展開した。

# 1 なぜ自殺を研究したのか？

---

「科学の進歩というものは、その対象としている問題の解決に向かってどれほど前進したかという指標によって認識される。それまで未知であった法則が発見されたとき、あるいは少なくとも、明らかにされた新しい事実が、…問題の立て方を変化させるとき、科学は進歩したといわれる。…〔既存の社会学は〕社会的領域のある限定された部分に光をあてることにつとめるよりも、好んでありとあらゆる問題に手をひろげ、絢爛たる一般論を展開し、なにひとつ問題をはっきり限定して扱おうとしないのだ。…せいぜいできることといえば、提起した仮説を例証するのに都合のよい事例を必要に応じて引用するくらいのことであるが、たんに事例をあげることは証明にはならない。…社会学の将来あることを信じる者は、当然このような事態に終止符をうつように心がけなければならない。」（『自殺論』9頁）

# 1 なぜ自殺を研究したのか？

---

「社会学者は、社会的事実にかんする形而上学的思弁に甘んじないで、はっきりとその輪郭をえがくことができ、いわば指でさししめされ、その境界がどこからどこまでであるかをいうことができるような事実群を、その研究対象とし、断固それととりくまなければならない。また、歴史学、民族誌、統計学などの補助的な分野をたねんに参照しなければならない。これらがなくては、社会学は無力なのである。」(11頁)

# 1 なぜ自殺を研究したのか？

---

「この研究からは、現にヨーロッパ社会をおそっている一般的な不安の原因と、その不安を緩和することのできる克服方法にかんしても、若干の指針がみちびかれるものとおもう。…今日の自殺は、まさしくわれわれを悩ませている集合的な疾患を反映しているひとつの形態にほかならない。それゆえ、自殺の研究は、その疾患を理解するための一助となることができるであろう。」(12頁)

# 1 なぜ自殺を研究したのか？

---

「本書の各ページからは、個人は、個人をこえたひとつの道徳的実在、すなわち集合的実在〔社会〕によって支配されているという印象がでてこないわけにはいかないとおもう。各民族には固有の自殺率があること、その率は一般死亡率よりも変化しにくいこと、それが変化するときには各社会の固有の増加率にしたがうこと、およびそれが、日、月、年のなかの各時点でしめす変化は、もっぱら社会生活のリズムを再現していることを知るとき、また、結婚生活、離婚、家族、宗教社会、軍隊などが、ばあいによっては数字でも表現できるような明確な法則によって自殺率に影響を与えていることを確認するとき、人びとは、これらの事態や制度を、力も効果ももたない、なにかしら観念的なこしらえものとみることをやめるにちがいない。」

(14頁)

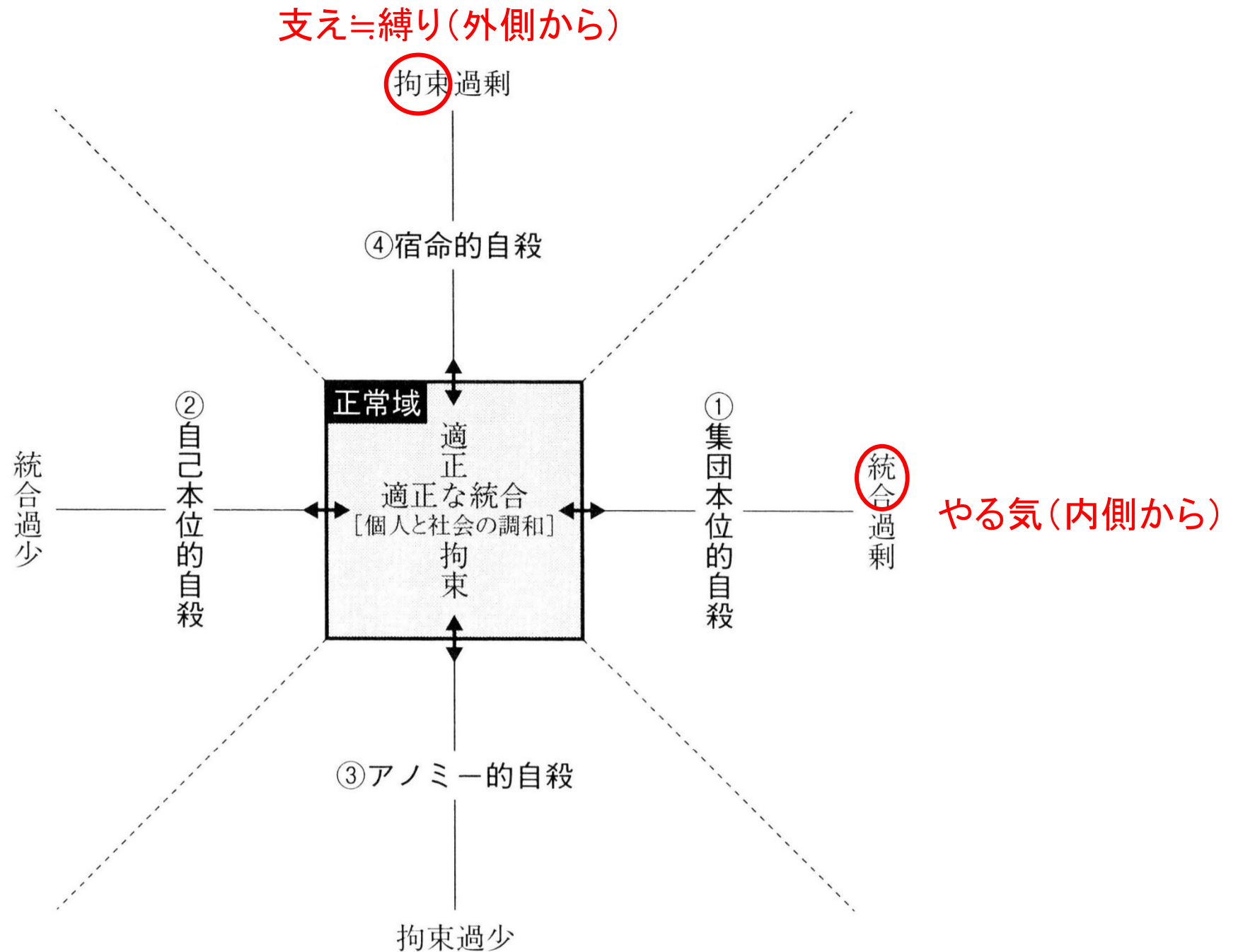
## 2 何が自殺の増加をもたらしたのか？

---

「自己本位的自殺 (le suicide égoïste) は、人が、もはや自分の生にその存在理由を認めることができないところから発生し  
〔「私は何のために生きているのか？」〕、また集団本位的自殺 (le suicide altruiste) は、生の存在理由が生そのものの外部にあるかのように感じられるところから発生する〔切腹、殉教、姥捨、村八分〕。ところが、…〔アノミー的自殺 (le suicide anomique) は〕人の活動が規制されなくなり、それによってかれらが苦悩を負わされているところから生じる〔怒りや焦燥の爆発〕。」(319頁)



# デュルケームによる自殺の四類型



## 2 何が自殺の増加をもたらしたのか？

---

「私はアメリカでこの上なく自由で最高に開明され、世界でいちばん幸福な境遇にある人たちを見た。ところが、彼らの表情にはある種の影がいつもさしているように見えた。娯楽に耽っているときでさえ、彼らは深刻でほとんど悲しげに見えた。」  
(トクヴィル『アメリカのデモクラシー』第二巻上233頁)

「アメリカ人は何という熱に浮かされて安楽を追求し、しかも、絶えず、安楽に至る最短の道を選び損ねたのではないかという漠然たる不安にどれほど苛まれていることだろう。」(233頁)

## 2 何が自殺の増加をもたらしたのか？

---

「生まれと財産の諸特権が破壊され、あらゆる職業が万人に開かれ、そしてそれぞれの職業の頂点に誰もが自力で到達することが可能なときには、人間の野心の前に広々として平坦な出世の道が開かれたように見え、人々はとかく栄光の生涯が自分を待っていると夢想する。だがこれは誤った見通しであって、日々の経験によって改められる。平等は市民それぞれに将来への大きな期待をいだかせるが、その同じ平等がすべての市民を個人では無力にする。それは彼らの欲望の拡大を許しながら、あらゆる面で彼らの力に限界を付する。」(236頁)

「フランスには自殺数の増加を嘆く声がある。アメリカに自殺は稀だが、精神異常は他のどこよりもありふれている。これは同じ病気の異なる兆候である。」(238頁)

## 2 何が自殺の増加をもたらしたのか？

---

「19世紀の初頭以来、経済の発展は主として、産業上の諸関係をあらゆる規制から解放することをつうじてすすめられてきた。」(『自殺論』313頁)

「生産者が、自分の生産物を直接の隣人に売りさばくことしかできなかつたかぎりでは、得られるわずかな利益は、欲望をとくに刺激することもありえなかつた。しかし、いまやほとんど全世界の顧客を相手にすることも期待しうるときになつては、このかぎりなくひらかれている前途をまえに、どうして情念はかつてのような制限を甘んじて受けいれることができよう。」(315頁)

## 2 何が自殺の増加をもたらしたのか？

---

「賢明な者ならば、獲得した成果を別の成果に取り替えていきたいという際限のない欲求をいだかず、得られた成果を喜んで受けいれることを知っているので、困難な時がおとずれても、生にむすびつくべき理由をそこにみいだしていく。ところが、いつも未来にすべての期待をかけ、未来のみを見つめて生きてきた者は、現在の苦悩の慰めとなるものを、過去になにひとつもっていない。かれにとっては、過去とは、焦燥のなかに通りすぎてきた行程の連続にすぎないからである。」(316頁)

### 3 アノミーを食い止めることは可能か？

---

「われわれの探究が、もし思弁的興味しかもつべきではないとするならば、それは瞬時たりとも研究に値しないものと考える。われわれが理論的問題と実践的問題とを慎重に切り離すのは、実践的問題を無視するからではない。それどころか、それをもっともよく解決できるようにするためである。」（『**社会分業論**』33頁）

「〔現在〕その増加が病的であると考えられるのは、自己本位的自殺とアノミー的自殺だけであり、われわれがもっぱら注目しなければならぬのも、せんじつめれば、この二つにかぎられる。」（『**自殺論**』477頁）

### 3 アノミーを食い止めることは可能か？

---

「自己本位的自殺は、社会があらゆる部分において十分に統合されておらず、そのためにすべての成員の投げどころとなることができないところから発生する。したがって、この自殺が法外にふえているのは、この自殺の起因している右の状態そのものが、極端にひろまっているためであり、すなわち、社会が混乱し、衰えて、その影響下からあまりにも多くの人間を完全に逸脱するままにまかせているためである。したがって、その病弊をふせぐには、社会集団を十分強固にして、個人をもっとしっかりと掌握できるようにするとともに、個人自身も集団にむすびつくようにさせること以外に方法はない。」(477頁)

### 3 アノミーを食い止めることは可能か？

---

「個人は、自分の行為がある一つの目標に向かっていることを、  
ときどきではなく、生活のそれぞれの瞬間瞬間において確かめ  
ている必要がある。個人は、自分の生をむなしいものと感じな  
いたために、かれが直接ふれることのできるある目的に役だっ  
ていることをたえず知っていなければならない。」(479頁)



### 3 アノミーを食い止めることは可能か？

---

「現在、ヨーロッパの社会は、職業生活を無規制のままに放置しておくか、それとも国家の介入によってそれに規制をくわえるか、という二者択一の岐路に立たされている。…国家の活動はつねに画一的で、かぎりなく多様な個々の事情にしたがうことも、それに順応することもできない。その結果、国家の活動は、必然的に圧迫的になり、また均質的になっている。かといって、他方では、たしかに、このように弛緩してしまった生活をすべて未組織のままに放置しておくわけにもいかないとおもわれる。」(487頁)

### 3 アノミーを食い止めることは可能か？

---

「この二律背反を解決するただ一つの方法は、国家のほかに——  
とはいえ、国家の影響にしたがう——もっと多様な規制作用を発揮できる一群の集合的な力を形成することである。…同業組合  
〔corporation〕は、現実と十分に密着し、十分に直接的、恒常的な接触があるので、現実のあらゆる微妙な性格をよく把握しており、しかも、十分な自立性をもっていて、現実の多様性を尊重しうるはず…である。したがって、保険、救済、退職年金などの事務をとり行なうのは同業組合の任務である。それらの事務は、多くの識者たちがその必要性を感じながらも、すでにあまりにも強力で硬直化している国家の手にゆだねることをためらっているものである。そして、そのためらいももっともなものがあった。」（487頁）

### 3 アノミーを食い止めることは可能か？

---

「現在の同業組合は、じつは、たがいに縁もゆかりもないような個々人、表面的でときおりのむすびつきしかないような個々人、あるいは協力者としてよりも、むしろ競争者や敵対者としてたがいを遇しあってさえいるような個々人などから形成されている。しかし、かれらが、共通のものをいま以上に分有するようになり、またかれらとその所属集団との関係が、この意味でさらに緊密に隔てのないものになったあかつきには、かつてほとんどなかったような連帯感が芽ばえてこようし、この職業的環境の精神も、まだ冷たく、成員にとってあまりにもよそよそしく感じられているが、それもかならずや熱気をおびてこよう。」 (488頁)

### 3 アノミーを食い止めることは可能か？

---

「しかし、同業組合再建によって対処されるのは、自己本位的自殺ばかりではない。アノミー的自殺も、自己本位的自殺と類縁関係にあるので、同じ扱いを受けてしかるべきである。…同業組合の主な役割は、…社会的諸機能、わけても経済的機能に規制をくわえ、要するに現におちいつている無秩序状態からそれらを脱却させることにある。欲望が刺激され、もはや限界をわきまえなくなりがちのとき、組合員のそれぞれの地位にたいする妥当な分け前を決定するのは、つねに同業組合であろう。」(491頁)

### 3 アノミーを食い止めることは可能か？

---

「国家の統一を破壊せずに共同生活の中心を多元化していくことのできる唯一の分権化の方法は、〔地域的分権化ではなく〕職業的分権化とでも呼ぶべきものである。というのは、それらの中心のひとつひとつは特殊な、しかも限定された活動の中心であるため、たがいに切り離すことのできないものであろうし、個人は、やはり全体との連帯をたもちながら、その中心にむすびつくことができるとおもわれるからである。社会生活が、完全に統一をたもちながら、しかも分割されうるのは、分割されたおのおのの部分が一つの機能を代表しているという場合にかぎられるのだ。」(502頁)

### 3 アノミーを食い止めることは可能か？

---

「この〔自殺を抑止するという〕目標に達するには、もはやみせかけの生命しか吹きこむことのできない時代ものの社会形態をわざわざ復興させる必要もなければ、まったく新しい、歴史上類例のないような社会形態を一からこしらえる必要もない…。必要なことは、過去のなかにふくまれていた新しい生命の萌芽をさぐりだし、その成長をうながすことなのだ。」(504頁)

# 出典

---

- ▶ デュルケーム『自殺論』（宮島喬訳、中公文庫、1985年）
- ▶ デュルケーム『社会分業論』（田原音和訳、青木書店、1999年）
- ▶ トクヴィル『アメリカのデモクラシー』（松本礼二訳、岩波文庫、2005～2008年）

# 参考

- ▶ 折原浩『デュルケームとウェーバー——社会科学の方法』（三一書房、1981年）